

こんな声がありました!

虫がわいている…。

「培養土のお話」



ママ! この前植えた観葉植物に虫がわいているよ。

なんでだろう?



少しにおいもするよ!

土の影響なのかしらね。



使った土の種類を確認してみよう!
培養土を使っているのであれば、含まれる堆肥の影響かもしれない。

植物の栽培に適した土壌を作るために、様々な原料が配合された土が「培養土」として販売されています。中には肥料や堆肥が配合されているものもあります。土の改良に役立つ堆肥は動物のふんや落ち葉などを発酵させたもので、発酵時の熱で温度が上がるため、虫の卵などが混入していた場合には死滅します。しかし、**使い始めると水分を含んだ堆肥内の微生物が活発に動き出し、においにコバエなどが寄って来たり、カビやキノコが発生する場合があります。**



発生したカビ

POINT 保管、使用時に気をつけること

- 直射日光や雨の当たらない場所で保管しましょう
気温差が大きい時期や雨上がり時などの湿度変化があるとカビやキノコが生えてしまうことがあります。
- カビが生えてしまった場合は、**風通し、日当たりのよい場所**で使用しましょう
気になる場合は土を上からかぶせてください。
またキノコが生えてしまった場合は、キノコと周辺の土を取り除きましょう。
こうした対処をすれば、そのまま育てても植物に影響はありません。
- 用途に応じて土を選びましょう
室内でにおいなどが気になる場合は、室内園芸用の土もあります。
堆肥が使用されていないものなど様々な配合の土が売られています。



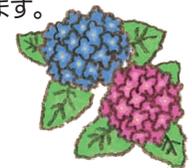
豆知識

植物に合った土を選ぼう!

植物によって必要な生育環境や栄養などが異なります。そのため、育てる植物に応じて土も配合を変える必要があります。植物に適した土を選びましょう。

例えば…

アジサイは品種の特性にもよりますが、土の酸度(pH)によって花色が変化するといわれています。一般的に土が酸性だと青色、アルカリ性だと赤色になりますが、より発色を鮮やかにするための青系アジサイ向け、赤系アジサイ向けの土なども売られています。



土にも種類があったのね!
目的に合ったものを選ぶようにするわ!

